

第一生命経済研究所のホームページご紹介

アドレス：<http://group.dai-ichi-life.co.jp/cgi-bin/dlri/top.cgi>（「第一生命経済研究所」で検索可能）
5月上旬までに上記ホームページに登場したレポートテーマの一例をご紹介します。このほか数多くの詳細な経済分析レポートが掲載されていますので、経済研レポートと合わせてご活用ください。

～急速に悪化した日本経済の構造に光をあて、対処の糸口を探ります。

- 2009/5/7 「先進国に先立ち景気底入れする日本～景気底入れの定義と雇用環境の深刻度～」
- 2009/4/22 「介護機能強化プランに賢い支出を～大都市圏の特別措置や給与体系の変更を～」
- 2009/4/7 「石炭値下げのマクロインパクト～年間家計負担を▲7千円/世帯押し下げ～」

掲載カテゴリ：日本経済分析チームによる「日本経済の羅針盤」

～変化の兆しも見え始めた世界経済から市場の今後の可能性を探ります。

- 2009/4/21 「世界は混乱から脱出したのか～Lの世界～」

掲載カテゴリ：鳥峰義清の「マーケットウォッチング」

～繰り出される景気対策をテーマに、日本経済の進むべき方向を考えます。

- 2009/4/24 「ワイズスペンディングとは何だったか～経済価値を重視するフィルター～」
- 2009/4/17 「贈与税減税と遺産マネー～遺産動機を持つマネーは相対的に大きくない～」

掲載カテゴリ：熊野英生の「金融市場の謎を解く」

～欧米先進国の経済危機の行方と成長力に期待がかかるアジア各国での景気反転を探ります。

- 2009/5/7 「海外 経済指標・イベント予定 “Weekly Global Economy”」（毎週木曜配信）
- 2009/4/22 「インド経済事情：消費の底堅さも投資の回復が今後の課題」
- 2009/4/17 「中国経済：1-3月期のGDPの概要～前年比+6.1%も「春」を迎えつつある～」

掲載カテゴリ：桂畑誠治の「米国経済を探る」、「アジア・新興諸国経済」

編集後記

昨秋、わが家の共同住宅で、専門の職人さんたちに頼んで小さな植え込みを手入れしてもらった。木々が息を吹き返し、今新緑がとてもまぶしい。このように専門家といわれる人たちは特に、プロとして鮮やかな腕前を見せることで仕事の評価を得る。エコノミストにとっては景気の見通しを話すことは重要な仕事の一つだろう。このところ、おかげさまで私ども研究所のエコノミストが、第一生命の活動を通じて経済情勢についてお話をする機会が増えた。世界中で景気が落ち込んでいるため、これからどうなるのか不安と関心を持たれている方々が多いのだと感じる。

今月号でも各レポートで今回の経済危機成り行きを再度見つめ直し、出来る限り先行きを見通そうとしている。ただ結果としてエコノミストが景気を様々に見誤ることはどうしても起きる。一般的に、発表済みの統計を重視して確実なことから将来を描こうとすれば、見通しは現状を延長したものになりがちだ。逆に経験や主観に重きを置いて大胆に先を見通そうとすれば、現実離れしやすい。そこで、一番気をつけなければならないのは、一つのシナリオにとらわれて、ミスリードにつながることはないだろうか。

予測も一つの仮説にすぎないが、世間に楽観論や悲観論が極まっているときには、話す側にも、聞く側にも極端なものが好まれやすい。予測結果だけではなく、いつまでも聞き手の判断の役に立った、と思われるような分析内容がエコノミストにとっては大切だと思っている。

(H. U)